

地域の あ 通信

Kanagawa-ku

Chiiki ryoku

神奈川区の庁舎内向けに、区内の地域情報や地域支援に関わる業務などを紹介します。

区政推進課 地域力推進担当 411-7026

Case 2

団体名：みどりと水を守り育てる「地域環境向上委員会」

「街なみ花物語」

バス停は素敵な花で魅力いっぱい



①

「地域活動はあきらめないこと、続けることが大事なことです～」
田中さん



■「近くの川や道路をきれいにして、住んでいる人に身近な自然の良さを感じてもらいたい。その先に、他人のために活動する人がここで増えたら嬉しいわ!」と話す菅田地区に住む田中揚子さん。14年前から始めた砂田川の清掃や周辺花壇などを整備する「砂田川水辺愛護会」の活動をしている。

■菅田地区は、ゆたかな緑が広がる神奈川区の奥座敷と言われている。住民の地域愛を育てるには、「住む街をきれいにするところから始めるのが大事だ」と田中さんは言う。でも、自然を町内会単位で区切ることはできない。町会の垣根を越え菅田町全体で街をきれいにならなければ、自然を守ることはできない。そのためには何からはじめたらいいかと、もやもやしていたところ、平成27年度「神奈川区地域づくり大学校」を、地域力推進担当から

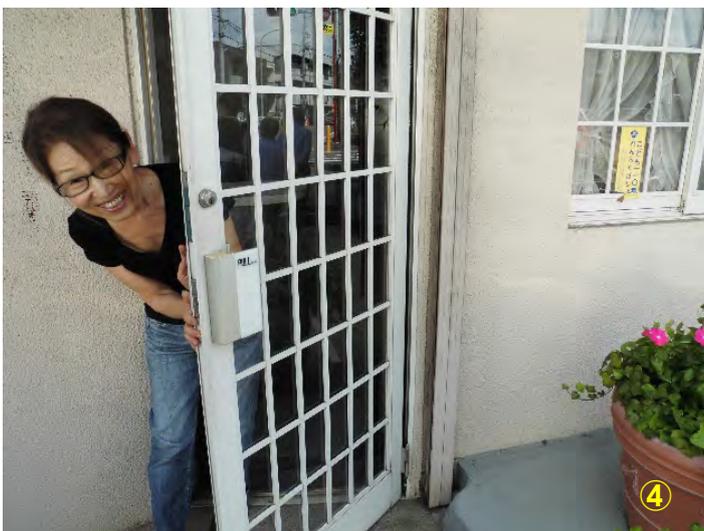
勧められた。

■大学校で、先進的な地域活動の事例を見学し、まちづくりについて講義を受け、頭の中でぐちゃぐちゃだった地域活動の思いがすっきり整理された。その思いを地域で実現したい「夢プラン」として生み出すことができた。

■ただ、その「夢プラン」を実施するには資金が必要だった。相談した区政推進課の当時の課長からアドバイスもらったのがきっかけで、環境創造局の「地域緑のまちづくり事業」に応募した。ダメ元の提案だったが、思いがけず申請団体の最高得点でトップ通過!3年計画で、菅田道路約3キロの中で菅田町入口から菅田町までの9か所のバス停近辺に、特徴を持たせた花や木を植える計画で助成金の交付を受けることができた。

■活動をともにするのは、連合町内会長





- ① 企業の協力を得て、駐車場に植えられた色とりどりの花（表面）
- ② 郵便局のエントランスに設置されているテラコッタ風の花コンテナ。花がお客さんを迎えてくれる。
- ③ ④床屋さんとヘアサロンにある花コンテナとお店の方「笑顔が増えた気がします～」

をはじめ、町内会の垣根を越えた町会の環境事業推進委員や元役員など。また、菅田地区全体で活動を理解してもらうため、地区にある10町内会の現役役員にも、ていねいに説明し協力をお願いした。助成金の審査で評価が高かったことのひとつに、この組織力の強さがあった。また、「街なみ花物語～バス停は素敵な花で魅力いっぱい」という事業名からイメージされる美しい街並みを「花物語」とネーミングしたところも評価された。

■花のコンテナを設置できるのは、バス停周辺の民有地に限られていた。そのため、事業に賛同し協力してくれるお店や事業者との交渉はとても苦労した。「おばちゃん一人が話をしても誰も聞いてくれないけど、地域のいろんな人が力を貸してくれたお蔭でどうにかになりました。ありがたかった。」と田中さん。郵便局、床屋、飲食店や企業などが、店の前に花を植えたコンテナを置いてくれることになった。心配された花の水やりも、それぞれのお店の人が協力してくれている。「花がきっかけで、お店を利用するお客さんとの会話も弾みます」と床屋さん。通勤、通学で使う生活道路のバス停やお店に花があることで、地域の話づくりにも貢献しているようだ。

■この事業をPRするために、花コンテナに手作りの看板を設置したり、街なみ緑化に関する広報誌を発行したり、花の寄せ植え体験や季節のリースづくりなどを実施している。最近ではこれらをきっかけに、「花物語」の運営側に参加する住民も出てきた。田中さんは「活動は個人のカだけではダメ。自分ができないことは、できる人にお願いしているわ。環境問題に意識が高く、困っていたらすぐ協力してくれる住民も多いの。」と笑う。

■来年は助成金事業の最終年度となる。「まだまだPRが足りないの。もっと多くの人に知ってもらいたい！ Think globally, act locally です！」と、「夢プラン」から実現した「街なみ花物語」はこれからも続いていく。